

屋久島世界遺産地域科学委員会の今後における検討課題について

1. これまでの検討成果

- ① 平成24年までに策定等
 - 世界遺産の保全状態等に関する定期報告
 - 顕著な普遍的価値の再陳述の提出
 - 屋久島世界遺産地域管理計画の策定（平成24年10月）
 - 屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画の策定（平成23年12月）
- ② 具体的検討の場の設置
 - ヤクシカ・ワーキンググループの設置（平成22年10月）
 - 山岳部の利用対策として屋久島世界遺産地域連絡会議の作業部会設置（平成25年4月）

2. 今後における検討課題

- ① 自然の適正な利用
 - 山岳部の利用のあり方の検討に当たっては、平成25年4月に設置した世界遺産地域連絡会議の下部に作業部会を設けて検討を進め、必要に応じて科学委員会関連委員から助言を得ることとしている。
 - 具体的課題としては、利用規制、入山料、全島の環境教育計画等を想定している。
- ② 調査研究・モニタリング
 - 新たな地域管理計画においては、生態系と自然景観の保全及び自然の適正な使用を掲げ、科学的知見を踏まえて順応的管理を進めることとされている。
 - 今後の検討課題としては、例えば、全島的な自然環境研究計画の作成、気候変動における研究成果の把握や大気汚染による森林生態系への影響に関するもの等が想定され、課題の検討に当たっては、科学的知見を踏まえた助言を得る。
- ③ ヤクシカ対策
 - ヤクシカ対策の検討に当たっては、ヤクシカ・ワーキンググループにおいて検討を進める。
- ④ 外来種（移入種）対策
 - 問題とされる外来種例はアブラギリ、タヌキ、イチモンジハムシなど。